

平成28年度
発生予察情報

特殊報第1号

平成28年6月28日
埼玉県病虫害防除所
(TEL:048-539-0661)

秋冬ネギ及び春ニンジンに発生したクロバネキノコバエ科の一種 (*Bradysia* sp.) について

県北地域の秋冬ネギ（根深ネギ）において、平成26年10月葉鞘部を食害するハエ目幼虫が確認され、また春ニンジンにも被害が確認されました。

平成28年6月現在、この害虫がクロバネキノコバエ科の一種（*Bradysia* sp.）であることまでが判明しています。

* 特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 害虫名 クロバネキノコバエ科の一種（*Bradysia* sp.）

2 発生経過

- 平成26年10月、県北部の畑作地において収穫期となった秋冬ネギの地下葉鞘部を加害するハエ目幼虫が確認された。平成27年5月にニンジンにも同種と思われるハエ目幼虫が食害していることが確認された。
- ネギ及びニンジンから採取した本種幼虫を室内で飼育し、羽化した成虫を横浜植物防疫所に送付し、同定を依頼した。
- 同定の結果、秋冬ネギ及び春ニンジンを加害する種は同一種であり、チバクロバネキノコバエ（別和名：チビクロバネキノコバエ）*Bradysia difformis* Frey と形態的には酷似するものの、触角、雄交尾器などの違いから異なる種であることが判明した。
- 現在、種の同定作業中であるが、本種はハエ目クロバネキノコバエ科の一種とされ、本邦未記録種若しくは未記載種である可能性が高い。

3 本種の特徴

- 成虫の体長は雄1.8～2.1mm、雌1.9～2.3mmである（写真1）。幼虫は白色を帯びた透明の体で黒色の硬い頭部を持ち、老熟幼虫の体長4mm程度である（写真2）。
- 発生は大雨で浸水するような場所や排水の悪いほ場で多い。

4 被害の特徴

- ネギでは、本種幼虫が地下部葉鞘や盤茎を食害する（写真3）。外葉が枯れ、生育が悪くなり、掘り取ってみることで本種幼虫の発生に気づくことが多い。

(2) ニンジンでは、本種幼虫により、根部表面に針でつついたような小さな穴から数 mm 程度の円形の穴が生じ、周囲の表皮が黒褐色化する(写真4)。傷の大きさは数 mm から 10 cm 程度まであり、周囲の表皮が黒褐色になる。さらに加害が進むとこれらの穴が連結して拡大する。被害は根部の肩や中部に多く、根部を深く食害されると地上部の葉が萎れる場合がある。また、本種幼虫の加害を受けると根部が割れやすくなる。

5 防除対策

- (1) 本種幼虫の被害が確認された又は生育不良等で抜き取ったネギ及びニンジンの植物残渣については、分散防止に努めながらほ場で焼却等により適切に処分する。あるいは、ほ場内にすき込んだときは石灰窒素による植物残渣の腐熟促進等の処理を徹底する。また、ネギ及びニンジン以外の植物についても、残渣をほ場内に放置しないなどほ場衛生の確保に努める。
- (2) 出荷調製段階で本種の付着や食害痕などをよく確認し、出荷物に本種が付着したまま流通することのないよう努める。また、出荷調製段階の残渣についても、放置せず適切に処分する。
- (3) 水はけの悪い場所で本虫の発生が多い事例があるため、明渠の設置など水はけの改善に努める。
- (4) 本種発生が多い土壌については、土壌消毒の実施を検討する。
- (5) 本種の発生ほ場では、可能な限りネギ及びニンジン以外の作物を栽培することを検討する。



(写真1) クロバネキノコバエ科の一種成虫(左が♀ 右が♂ 体長2 mm 前後)



(写真2) 同幼虫



(写真3) ネギ葉鞘部を食害する幼虫



(写真4) 幼虫によるニンジンの食害